

芸術科			
教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ
科目の目標	本校における「書道Ⅰ」では、書芸術に対する理解、および感性・創造性の育成、ならびに表現力の向上を目指すとともに、書を通して主体的に生き、さらには生きがいと潤いのある生活が送れる基礎的な力を養うことを目標とする。		
履修学年	1年	類型	
単位数	1単位	履修形態	選択履修
教科書	教育出版「書道Ⅰ」	副教材等	北海道高等学校書道教育研究会「墨心」

①学習の目標

表現および鑑賞の諸活動を通じて、書芸術を理解するとともに、青年らしい感性および個性の伸長を図り、生活をより豊かにしようとする創造性の基礎を培う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 書の表現には多様な方法、無限の表現の可能性があることを学ぶ。
- (2) 創作書では、主体的・創造的な語・詩文の獲得をめざす。
- (3) 母校、郷土に関する教材を学ぶ。
- (4) 生活の中の書に関心を持ち、積極的に楽しむ。

③学習にあたっての留意点

本校「書Ⅰ」の履修にあたって留意すべきことの最低ラインは、次の5点とする。

- (1) 「書」の新しい見方や表現に興味・関心を持ち、積極的に挑戦する。
- (2) 常に前回より一歩成長、工夫・向上の跡を残すよう努める。
- (3) その時間ごとの準備、作品ごとの制作上の留意点を必ず確認する。
- (4) 忘れ物をしない。早く教室に集合し、準備をすばやく行う。
- (5) 常に題材とする語・詩文の取材、収集に努める。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫【芸】 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫
- (3) 創造的な表現の技能【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
- (4) 鑑賞の能力【鑑】 芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 作品ごとに、上から5～1の5段階表示をし、当該作品制作における「ねらい」が概ね達成されているものを3(並)とする。
- (2) 学期ごとの評価は、当該学期内の作品評価点をベースとし、努力の姿勢、向上の跡、工夫の跡などが見られる場合には加点し、反対の場合は減点する。その際、上記③の5項目についても評価の観点とする。なお、評価点は、教務内規に則り、100点法で表示をする。
- (3) 学年評価は、上記(2)の方法により、年間を通して算出する。
- (4) 評定は、学年評価を教務内規によって換算し、5段階表示をする。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4,5 6 7,8 9	篆刻 用具・用材の扱い 線質の研究 臨書の初歩 臨書の実践	落款印制作 筆の水洗い、教室内の用具の扱い、用紙・反故の扱いなど 入筆角度・運筆速度と線質 楷書 九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑 楷書 牛橛造像記・賀蘭汗造像記・顔氏家廟碑 ※思考力・判断力向上のために 生徒同士で作品を鑑賞し合い、よりよい作品にするための方 提案する。提案に基づいた作品作りと振り返りを行う。	1 書的美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2 作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】 3 表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4 用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】

10	創作の基本 紙面構成研究	線質・文字造形の基本 隙間のない紙面構成、 余白強制紙面構成	1 書の美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】
11	墨色研究	潤・渴の変化、墨の濃淡	2 作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】
12	背景構成	濃淡墨の重ね書き、白黒反転作品	3 表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】
1	紙の加工	揉み紙作品	4 用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】
2	筆の変化	筆以外を使って表現	
2	仮名	仮名入門(基本用筆・いろは)	
3	テーマ作品	新入生へのメッセージ	
		※思考力・判断力向上のために 生徒同士で作品を鑑賞し合い、よりよい作品にするための方 案を提案する。提案に基づいた作品作りと振り返りを行う。	